



官
剡
孝義錄

卷十

信濃

1596
10



9
1596
10



孝義錄卷之十

信濃國

○奇特者

依代官支配所
高井郡小見村

○奇特者

同支配所
高井郡小布施村

○孝行者

同支配所
依久郡内山村

○孝行者

同支配所
依久郡輕井澤岩

○孝行者

同支配所
伊那郡片相村田邊

○孝行者

同支配所
同所

243

下

百姓

本清太右衛門

安永九年
濟慶英

百姓

高井作左衛門

天明六年
濟慶英

百姓惣為傳

龜松

天明八年
濟慶英

無田百姓之倉馬後家

小川

寛政二年
濟慶英

百姓

古志清

寛政三年
濟慶英

古志清傳

与云清

同時
濟慶英

五十一歳

孝義錄卷之十

孝行者 同支配所

孝行者 同支配所

奇特者 同支配所 高井郡中野村

奇特者 同支配所 高井郡中野村

奇特者 同支配所 高井郡中野村

奇特者 同支配所 高井郡中野村

奇特者 同支配所 高井郡江村

奇特者 同支配所 高井郡栗林村

与妻湯將

九八 同時 寛政五年

傳右衛門 同時 寛政五年

差左衛門 寛政五年

林右衛門 寛政五年

市右衛門 寛政五年

庄右衛門 寛政五年

武右衛門 寛政五年

百姓 寛政五年

孝行者 同支配所 伊那郡羽廣村

孝行者 同支配所 依久郡和田村

奇特者 松平丹波守小禰所 筑摩郡仁徳村

孝行者 同支配所 筑摩郡下西條村

孝行者 同支配所

孝行者 同支配所 筑摩郡下西條村

孝行者 同支配所

孝行者 同支配所 筑摩郡日土塩村

百姓惣助娘

百姓 無田百姓七若菜後家

百姓

百姓 久々清妻

百姓

百姓

百姓 志子母

百姓 志子母

同

孝行者 同領所 筑摩郡上生坂村

孝行者 同領所

○孝行者 同領所 筑摩郡本山宿

孝行者 同領所

孝行者 真田右京大夫領分 水内郡越道村

奇特者 同領 水内郡鬼無里村

孝行者 同領 松代城下中町

○孝行者 同領 埴科郡東條村

孝行者 同領 埴科郡屋代村

孝行者 同領 埴科郡前宿村

孝行者 同領 埴科郡東條村

奇特者 同領 松代城下青町

○孝行者 同領 水内郡三輪村

孝行者 同領 更科郡小倉田村

孝行者 同領 松代城下紺屋町

奇特者 同領 松代城下青町

百姓

清五郎妻 寛政五年

百姓

市左衛門妻 同領所 同時

百姓

忠三郎 同領所 同時

百姓

市左衛門妻 同領所 同時

谷主

忠三郎 同領所 同時

町人

市左衛門妻 同領所 同時

百姓

忠三郎 同領所 同時

市左衛門妻 同領所 同時

忠三郎 同領所 同時

無田百姓六助妻

市左衛門妻 同領所 同時

無田百姓

忠三郎 同領所 同時

百姓

市左衛門妻 同領所 同時

町人

忠三郎 同領所 同時

百姓

市左衛門妻 同領所 同時

無田百姓衣右衛門娘

忠三郎 同領所 同時

町人

市左衛門妻 同領所 同時

町人平右衛門姪

忠三郎 同領所 同時

孝行者 同領 松代城下荒神町

町久心所伯母

奇特者 同領 松代城下伊勢町

町年寄

奇特者 同領 松代城下伊勢町

八田孫左衛門 四十七歳

天明八年

奇特者 同領 埴科郡岩野村

無田百姓

仁吉屋 死後

天明八年

孝行者 同領 更科郡東福寺村

無田百姓依去清妹

磯之屋 二十五歳

天明八年

孝行者 同領 松代城下馬喰町

町入七之所母

三津 三十八歳

寛政元年

孝行者 同領 埴科郡屋代村

百姓

下里 三十七歳

寛政元年

孝行者 同領 埴科郡東條村

百姓

庄之原 三十一歳

寛政元年

重原 四十七歳

寛政元年

孝行者 同領 水内郡小堀村

百姓

市左衛門 三十八歳

寛政元年

孝行者 同領 松代城下伊勢町

町入

又松 二十四歳

寛政元年

孝行者 同領 更科郡中牧村

百姓長衣女妻

いん 三十一歳

寛政元年

孝行者 同領 松平丹波守領分 筑摩郡白坂村

無田百姓又七娘

さき 三十二歳

元文四年

孝行者 同領 筑摩郡清村

百姓

浅右衛門 三十二歳

宝暦二年

孝行者 同領 筑摩郡東新村

百姓与去清娘

之津 三十一歳

宝暦三年

孝行者 同領 安曇郡吉野村

百姓半去清妻

かみ 三十九歳

宝暦六年

孝行者 同領 安曇郡耳坂村

百姓又八妻

津之 四十一歳

宝暦六年

孝行者 同領 安曇郡二本村

孝行者 同領

孝行者 同領 安曇郡長尾村

孝行者 同領 松本城下東町

孝行者 同領 筑摩郡之方村

孝行者 同領

孝行者 同領 安曇郡富田新田村

孝行者 同領 松本城下東町

百姓

武三清 早二歲 寶曆六年

百姓

卯年次 早二歲 同時

百姓

文右衛門 早二歲 寶曆六年

町人

本兵衛 早二歲 寶曆六年

百姓

六之助 早一歲 寶曆九年

無田百姓

萬六郎 早六歲 明和元年

百姓

傳三清 早九歲 明和元年

町人

志之助 早七歲 明和四年

百姓

多助 早九歲 明和五年

百姓

之助 早七歲 明和七年

孝行者 同領 安曇郡大町村

孝行者 同領 安曇郡上二本村

孝行者 同領 安曇郡水室村

孝行者 同領 松本城下和泉町

孝行者 同領 安曇郡内藤新田村

孝行者 同領 安曇郡富田新田村

孝行者 同領 筑摩郡相系村

孝行者 同領 筑摩郡横田村

孝行者

同領

孝行者

同領 筑摩郡松園村

孝行者

同領 安曇郡下寺尾村

孝行者

同領 安曇郡真々村

孝行者

同領 安曇郡田見村

孝行者

同領 筑摩郡小倉村

孝行者

同領 安曇郡埴崎村

孝行者

同領 安曇郡帆豆村

嘉八妻

五

里津

同領

世ん

安永三年

友松

安永五年

紋之丞

安永五年

安六郎

安永五年

森三郎

安永六年

浜右衛門

安永六年

友七

安永七年

孝行者

同領

孝行者

同領 安曇郡堀之内村

孝行者

同領 安曇郡中村

孝行者

同領 安曇郡立尾村

孝行者

同領 松本城下山家小浜

孝行者

同領 松本城下竹野町

孝行者

同領 松本城下小池町

忠孝者

同領 松本城下本町

嘉七妻

か屋

同領

吉原門

安永七年

市右衛門

安永七年

庄六郎

安永八年

忠五郎

安永八年

安之丞

安永八年

庄七

安永八年

友七

安永八年

六

孝行者 同領 松木城下東町

孝行者 同領 安曇郡木船村

孝行者 同領 安曇郡木船村

孝行者 同領 筑摩郡三津村

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 安曇郡須田村

孝行者 同領 筑摩郡吉田村

孝行者 同領 安曇郡細野村

町八八助将

百姓

百姓

百姓 李去清将

百姓 李去清将

百姓 八去清将

百姓 三去清将

百姓

忠 助 安永八年 寢美

李去清 安永八年 寢美

李去清 安永八年 寢美

李去清 安永九年 寢美

李去清 同領 寢美

李去清 安永九年 寢美

李去清 安永九年 寢美

李去清 安永九年 寢美

孝行者 同領 安曇郡富田新田村

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 安曇郡青木花見村

孝行者 同領 安曇郡上木木村

孝行者 同領 安曇郡等々力村

孝行者 同領 安曇郡野口村

孝行者 同領 安曇郡七日市場村

百姓 清次郎将

百姓 九去清将

百姓

百姓

百姓

百姓

百姓

九去清 安永九年 寢美

助右衛門 安永九年 寢美

久 安永九年 寢美

久 安永九年 寢美

久 安永九年 寢美

久 天明元年 寢美

久 天明二年 寢美

孝行者 同領 安曇郡一日市場村

孝行者 同領 安曇郡小倉村

孝行者 同領 安曇郡新屋村

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 安曇郡切之保新田村

孝行者 同領 安曇郡牧村

孝行者 同領 同領

孝行者 同領 安曇郡大町村

百姓

百姓甚平妻

百姓

百姓持七伴

百姓

百姓

百姓

長九郎 天明二年 二十九歲

久八 天明二年 二十九歲

由右衛門 天明二年 二十九歲

百太郎 天明二年 二十九歲

勝五郎 天明二年 二十九歲

作左衛門 天明二年 二十九歲

中 天明二年 二十九歲

持次郎 天明二年 二十九歲

百姓甚七伴

町人

百姓孫之屋娘

百姓文左衛門持次郎妻

百姓本三伴

百姓甚助伴

無田百姓孫助妻

勝右衛門 天明二年 三十五歲

差十 天明二年 二十九歲

多 天明二年 二十九歲

色 天明二年 二十九歲

盛左衛門 天明二年 二十九歲

里津 天明二年 二十九歲

弥吉 天明三年 三十一歲

志賀 天明三年 三十一歲

孝行者 同領 松本城下宮村町

孝行者 同領 安曇郡及木村

孝行者 同領 同所

孝行者 同領 安曇郡新屋村

孝行者 同領 筑摩郡下園田村

忠義者 同領 松本城下本町

孝行者 同領 松本城下和泉町

○奇特者 同領 安曇郡松崎村

町人深右衛門

百姓

吉左衛門

百姓武右衛門

百姓玄之丞

町人

町人深右衛門

百姓

三十九歲 天明三年

二十九歲 天明四年

二十四歲 同時

二十六歲 天明四年

四十五歲 天明四年

四十五歲 天明四年

三十四歲 天明四年

三十六歲 天明四年

町人玄右衛門

百姓孫左衛門

金右衛門

百姓

百姓清三郎

同領

百姓平次郎

町人玄右衛門

二十七歲 天明五年

三十一歲 天明五年

同時

三十三歲 天明五年

三十三歲 天明五年

同時

三十三歲 天明五年

三十三歲 天明五年

孝行者

同領 松本城下博勞町

孝行者

同領 安曇郡子見村

孝行者

同領 同前

孝行者

同領 流磨郡村井町村

孝行者

同領 松本城下本町

孝行者

同領 安曇郡及木村

孝行者

同領 安曇郡中萱村

孝行者

同領 安曇郡吉地村

町人吉去清將

七之郎

天明六年 癸亥

百姓次郎左衛門將

利原忠門

天明六年 癸亥

利原忠妻

巳女

同時 癸亥

百姓孫吉清妻

依子

天明六年 癸亥

町人

新右衛門

天明六年 癸亥

百姓清五郎清家妻娘

け子

天明七年 癸亥

無田百姓清三郎娘

け子

天明七年 癸亥

百姓清八郎

仙次郎

天明七年 癸亥

孝行者

同領 同前

孝行者

同領 同前

孝行者

同領 安曇郡埴鳴新田村

孝行者

同領 安曇郡切窪新田村

孝行者

同領 筑摩郡南新田村

孝行者

同領 松本城下存勢町

孝行者

同領 松本城下中町

孝行者

同領 安曇郡青木花見村

同

同娘

吉右衛門

同時 癸亥

七之郎

同時 癸亥

た子

天明七年 癸亥

長七

天明七年 癸亥

三子

天明七年 癸亥

孫次郎

天明七年 癸亥

武七

天明八年 癸亥

吉右衛門

天明八年 癸亥

孝行者

同領 統摩那庄内村

孝行者

同領 松平佐野吉領分 小縣那本海野村

孝行者

同領 小縣那房山村

孝行者

同領 小縣那十人村

孝行者

同領 小縣那踏入村

奇特者

同領 更科那橋高山村

孝行者

同領 小縣那上塔鹿村

孝行者

同領 上田城下横町

百姓新助娘

い 七

寛政元年

喜田百姓若口所娘

ろ 王

宝曆十年

喜田百姓長左所娘

長 吉

明和六年

百姓助也所娘左

妙 法

明和八年

喜田百姓市右所娘

そ 乙

安永七年

百姓

撞 左

天明二年

喜田百姓

文 平

天明七年

町人借左住左所娘

仙 之助

天明四年

孝行者

同領 上田城下永町

孝行者

同領 小縣那中狭村

孝行者

同領 小縣那中塚村

孝行者

同領 小縣那謙永村

奇特者

同領 小縣那房山村

奇特者

同領 同所

孝行者

同領 小縣那馬越村

○潔白者

同領 小縣那岩田村

町人借左住若助娘

か 人

天明六年

喜田百姓清口所娘

そ 乙

天明七年

喜田百姓借助娘

佐 平

天明七年

百姓勤七伴

加 助

天明七年

百姓

忠 忠

天明七年

喜田百姓

九 山

天明七年

喜田百姓新助娘

富 次郎

天明八年

喜田百姓

友 治

天明八年

○孝行者

同領 小縣郡藤原村

孝行者

同領 小縣郡子塚村

孝行者

同領 小縣郡海野町

孝行者

同領 同所

○忠義者

同領 大和守領分 高遠城下本町

孝行者

同領 同所 同領 同所

孝行者

同領 同所 同領 同所

孝行者

同領 同所 同領 同所

書百姓全志

勤太郎

寛政元年

良八

寛政元年

吉右衛門

寛政元年

勝次郎

同時

善吉

天明元年

次郎

宝曆元年

吉清

宝曆元年

西

安永三年

貞長者

同領 同所 同領 同所

○孝行者

同領 同所 同領 同所

孝行者

同領 同所 同領 同所

忠孝者

同領 同所 同領 同所

忠孝者

同領 同所

孝行者

同領 同所 同領 同所

孝行者

同領 同所 同領 同所

孝行者

同領 同所

無田百姓 源治平五郎妻

三光

天明八年

百姓 源治平五郎妻

三光

天明八年

無田百姓 小右衛門

三光

天明八年

百姓 小右衛門 助護代下男

三光

天明八年

町人 源治平五郎妻

三光

天明八年

百姓

三光

天明八年

百姓 源治平五郎妻

三光

天明八年

百姓 源治平五郎妻

三光

天明八年

孝行者

同領 飯田城下本町之町目

忠義者

同領 飯田城下田町

○忠義者

同領 飯田城下松尾町二丁目

孝行者

同領 伊那郡下市田村

孝行者

同領 伊那郡下市田村

○貞良者

同領 伊那郡下市田村

孝行者

同領 伊那郡下市田村

孝行者

同領 伊那郡上市田村

町人早太郎家代

新之丞

明和四年

町人久吉家下男

年七

明和四年

町人借金住

後助

明和四年

庄全

年九

明和四年

庄全

年五

明和四年

百姓老松門下者園七後家

生

明和四年

百姓

四郎左衛門

明和四年

百姓

年吉

明和四年

孝行者

同領

忠義者

同領 伊那郡下黒田村

孝行者

同領 伊那郡時又村

孝行者

同領 伊那郡免賀村

孝行者

同領 伊那郡免賀村

孝行者

同領 伊那郡免賀村

孝行者

同領 伊那郡免賀村

孝行者

同領 伊那郡免賀村

平吉

文七

同時

百姓佐平馬下男

半平

明和四年

百姓

長右衛門

明和四年

百姓百姓是七妻

里人

明和四年

百姓

源之丞

明和四年

百姓

孫次郎

明和四年

百姓

年五郎

明和四年

庄全馬下清吉娘

海

明和四年

孝行者

同領 依那那田村

孝行者

同領 依那那野村

孝行者

同領 依那那山村

奇特者

同領 依那那山村

孝行者

同領 依那那山村

奇特者

同領 飯田城下松尾町二丁目

孝行者

同領 依那那山村

孝行者

牧野周防守領分 依那那山村

庄屋長三郎下

表平次

明和四年

無田

依右衛門

明和四年

庄屋三左衛門下

八

明和四年

庄屋三左衛門下

庄

明和四年

庄屋三左衛門下

源左衛門

明和四年

町人大工藤若志才下

卯三郎

安永元年

百姓平六郎

補

天明四年

喜田百姓佐兵衛下

茶次郎

宝曆十一年

○孝行者

同領 依那那八満村

○孝行者

同領 依那那下之我村

奇特者

同領 依那那山村

○奇特者

同領 依那那山村

奇特者

同領 依那那望月島

奇特者

同領 依那那山村

孝行者

同領 依那那下之城村

孝行者

同領 依那那山浦村

百姓定吉法家

己

安永元年

百姓

定之丞

安永六年

百姓

柱石

天明三年

百姓

高橋信太郎

天明三年

無田百姓吉五郎母

久

天明六年

百姓

儀左衛門

天明六年

百姓定吉法家

住

天明七年

無田百姓吉三郎

鹿

天明七年

孝行者

内茂志摩守領分
依久那小田井村

孝行者

同領
依久那米村田花町

孝行者

同領
同所

孝行者

松平橋津守領分
水内那枝堂村

孝行者

同領
依那那大森平岩村

孝行者

同領
依那那中村

孝行者

同領
依那那山田内村

孝行者

同領
依那那山本村

無田百姓

孫七

天明五年
癸亥

無田百姓

八五郎

寛政元年
癸亥

八五郎

同領

同時

百姓

与右衛門

貞享三年
癸亥

百姓

吉

貞享三年
癸亥

大工

金四郎

安永元年
癸亥

百姓

甚右衛門

安永八年
癸亥

百姓曾左衛門

小

天明元年
癸亥

○孝行者

松平大次郎行所
更科那川中急合井村

孝行者

同領行所
更科那中水地村

孝行者

同領行所
更科那上水地村

孝行者

同領行所
更科那上水地村

孝行者

同領行所
更科那上水地村

孝行者

同領行所
同所

孝行者

同領行所
更科那上水地村

孝行者

同領行所
更科那上水地村

百姓松平忠房

孫曾八

寛政三年
癸亥

百姓

伊平次

寛政三年
癸亥

百姓

名助

寛政三年
癸亥

無田百姓

孫

寛政三年
癸亥

無田百姓八娘

孫

寛政三年
癸亥

目

三子

同時

助右衛門

寛政三年
癸亥

吉太郎

寛政三年
癸亥

百姓

吉太郎

寛政三年
癸亥

孝行者

同知行所
更科那塔崎村

百姓

久茂

寬政三年

孝行者

同知行所
更科那塔崎村

百姓友公出陣

武右衛門

寬政三年

農業出精

同知行所
更科那塔崎村

百姓

熱右衛門

寬政三年

孝行者

同知行所
更科那塔崎村

百姓友公出陣

紋右衛門

寬政三年

孝行者

同知行所
更科那塔崎村

百姓

源右衛門

寬政三年

農業出精

同知行所
更科那塔崎村

百姓

茂左衛門

寬政三年

農業出精

同知行所
更科那塔崎村

百姓

久左衛門

寬政二年

農業出精

同知行所
更科那塔崎村

百姓七之丞出陣

初之助

寬政二年

農業出精

同知行所
更科那塔崎村

百姓

住左衛門

寬政三年

農業出精

同知行所
更科那塔崎村

百姓

次郎助

寬政二年

農業出精

同知行所

次郎助

音次郎

同時

孝行者

座光寺住持助知行所
住那貼上平村

百姓

仁左衛門

天明三年

孝行者

同知行所

仁左衛門

名不知

同時

とき〜とき〜も笠原中々のもねをとり志この
 とあらよと赤巻のふね〜主婦をつらねた乃後
 食をたよめらるゝ若者もそれ食との人ねハ起ふを
 中らてうとあくふ安巻とらふ父乃後よいつの時を
 下給二人を〜して志つり〜め帰るはあひよの道く
 下入を〜〜らせり己もりきふ取あ〜いて取目
 乃志もつ〜〜あ〜と〜じり巻ふ海〜親族乃よ
 〜〜〜のり〜〜き〜ら〜るも乃あ〜〜〜腕
 の内を〜〜〜〜あ〜もつ〜〜や〜りあ
 と〜〜〜訪〜と〜〜村〜

念はよみ抱せ〜の親族もね〜と〜れよ〜い〜
 ひ親〜と〜は〜ものを〜めあふ出いらあ〜も
 そのひひよあひそのを村よ西川よそのい〜村のよ
 百三十八名あありあり〜の元文と奉〜りよの〜川
 流〜り〜して田畑を押流〜八十名あも〜〜けれい
 村人復〜い〜難救〜と〜〜い〜の〜若者あ〜海〜
 を歎〜利済〜と〜と〜金銀を〜〜あ〜隣村の田畑と
 質よ〜と〜せ〜も南鴨〜あ〜鴨〜〜中村本見〜い
 田村の田畑を質よ〜と〜質〜〜り〜の〜あ〜質〜と
 よ〜〜作〜せ〜れ〜復〜も家田畑よ〜と〜〜利

けく耕作の力とせむるその中にもふよめりて指く
 とよめんのとらふものへふとせむるに酒
 つり油もつたよけとて年法もあつたて
 種もよ種してその安法をもめとせしむる
 りれもとらふりことふんこれよりとらふ
 子曲川洪水せし時父の愚跡百六十俵の麦とあつて
 飢人を救ひきをせむ家つとて後明和二年あつてこ
 め年の洪水もも麦稗と後いけり年二百石を
 うのこ安永八年八月廿四日の夕より廿六日の朝まで
 西風烈くと神堂坂井下木橋のと村水とらふり

出く屋舎とていふとていふも家のいふとていふ
 へく飲食のあつていふとていふもいふとていふ
 めとめりていふとていふとていふとていふ
 その代官岩出候とていふとていふとていふ
 三月慶長ありて後あり年カはその年とていふ
 字に永くも永くもいふとていふとていふ

岩行者龜松

龜松は佐久郡内山村の百姓也志つたふたりのその里信濃
 上野の境ある破風山の麓よとて松葉多し我家
 ありと町とての備とていふとていふとていふ

さら書小巻とてとて並て天明八年九月廿六日の夕
 うに父より「こふまゝなひゆら龜松いふつものありて
 弟どより父の意を盡しむるなりこれ小巻より父を養
 てあるなりしやうしやうしらのこころの懐かきあり
 るくまどつひつこけらに慈右衛門の誓ひしてやうと那
 せしりの後又養うり腹をうけてかたつとこの慈右衛門
 叶ふしにふひて懐の事とつと声してくまどつひのき
 事ハ龜松あふくくせまの鎌をとりてはよつとい
 れ引くくまどつひの鎌よりかたおひけしハ父の鎌より
 て鎌柄をよひしやうとつと倒しこれをも父の

ああこの事よきて倒ししやう懐かきまはれ記さるる
 せしりの名どつひてこの鎌柄を志くくまどつひの
 牙よりつとつと鎌もよひらつとけるや大指してあの腹
 をとりあつた力のつとつとあつとつとつとつとつと
 そり父のあつとつとつとあつとつとつとつとつとつと
 けしに目よひつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 ぶつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 てつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 つとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつとつと
 はその事九月廿六日寝養して懐かきつとつとつとつと

といひける

孝行者のほ

依久那檀井海若よのつとむちもちのりまのるを
い田知もあつて百姓多かりしころ老るる姑おつた
のまはあしし重て安永七奉りあつてころつた
めやうよ姑よつたふあけたいといつてもふ
うららと感の程ふ乃傷らつて世渡りとなり
稚子と引つきて後の村乃日産いあもゆらけり
る姑の一人ある事と思ひく風あのをきく
ゆりぬ姑の老のころいよき食物の好まふを
り

義とつとむつたの價をぬく儀菓子あうの
とつともあふふいよき事あつた姑よの
そりあつたよとつとむつたの儀菓子あうの
あり名こつとむつたの儀菓子あうの
らと田畑いあつて産ふ人もあつた
りしに二人の子の癩病の病さ日くよおつた
の助をともあつた姑と養物をあつて兄の
とあつたよとつとむつたの儀菓子あうの
伯母の儀とつとむつたの儀菓子あうの
いのがとつとむつたの儀菓子あうの

その才をくわめ初らばいふにむいふにむれもあらうこれの
 乃乃色これ弟妹の義とらうて食らうけらうこれと
 不まに相捕まうて油らひの性某のなうらうらわらう
 小捕まうて飢を志のへらうらあうを村乃老もあうま
 ころしてらうれおふとあうこれらも姑の物々乃食に
 悔して己の終日物くうら色あう事多うりうらう
 同は四年のも又凶作して凍増しれ貧しうこれ
 と姑の事いむらう事あうわけむに村人も感して
 食らうと増らうと助けらうらうらう秋のけらう姑の
 病よふらうの孝義のうまうけらうらう次男の佐吉

平もなうらうらうの親族にあの事とてお量怒に
 つらう事その里人乃初へあうらうらうてはば友佐友
 友ふ初らうとすえあうこれに癡い友の報とこらう
 とあうらうらう寛政二年二月乃事あうらう
 孝行者名を法
 孝行者名を法
 保那郡片桐村のうら田邊とらう不乃名を法とて田畠
 乃名は十三石五斗あうらう抱て豊し小者らうせらう百姓
 ありもとらう海あやうらう生つらうらう家の内睦く
 らも小耕作とつらうて怠らう事かう父も名を法

とらいつの或時庭の塵拂ふとて弟の如く觸れを
 ん接ふとわけてことよきもあつる事よと人
 つぶやくとこの言を満ちてあつた例よありと
 弟よあやまちありつとて父よ向いて詞を
 言ひてあつて今にわかつ後悔の涙とそ催し
 けり父の如く浴とる事を好らつたやうに
 水くと風呂を浴とて湯とひを父のほい下敷と使ひ
 二里のりの備とるふよめて茶とから事たのむ
 ちとらつたやうのまゝに寝たらくあつたりてけ
 りとて此路のをたると人急とて帰ると例のとくに

湯あつとせつもの父の老ぬ後ハ毎度不を離
 れとてあつたを懐き入る暖め二使の通ひとも
 熱よ使ひつた例のまゝとて父の労せん事とん
 くらひの外あつたとらふあつたといひつら
 父の様らとてそ厭ひされいふも潔くあつた
 らとてつとと路よあつて己の心とくに當み建
 二使の度毎よとつら様とらる事ととと父と
 せよいあつた一程のまゝとてあつたといふ
 ともあつたまゝとつとあつた事とらつた
 年よあつたの程二里ある飯島町といふ所乃陳を

九八八耕作のつとめせりといへども母よとてむる食
 料をいづつら洞一す免て人せまにうけとせり乃
 ち若くはくくもものふむ事と好と論證小島の
 まともきひくふみ農乃以耕作のつとめつけとも
 里婦へとして父のつとめつとりのもらりよとせり乃め
 こころよふい海ありしとてあていふむよとてむるこ
 ころよと後はその業をよとて農事とのつとめせり
 田へのもの亦りたりといふあめやのりといへば代交給本
 新吉考えあせりといへ人のりれぬ復い其の親あり
 といへば事しれあり時の寛政三年二月乃とせり記

孝行者もよ

もよい保那那羽廣村めてさるると斗もとる百姓熱助
 一の妻女あり熱助のいと飛弾を言ふものよてけもよ
 といふて妻女らるりげらに生質やとてく父母らよ
 ありいと作人のしよめもそむげら事るるも菓子とて
 人よ賞いぬれい必持帰して二親ふとせ母乃あつとふ
 ると待て食せり熱助は母も孫よとてと妻あひくか
 明和七年の早魁よ適てせりころのありとてその妻
 子と果して尚も与作村といふ不よさぬあひ来う後ち
 け村よ移りてとて負このあありにりよ十一の年平次

して家小帰りのこといしく親とまゐひあへり天竺と年
 の凶作よりとて遂て艱苦あへんといふ程く程くのもど
 とり難へある食物の由ゆへもろくこ布と撰ひて父母
 ふとく先着をせり傾けへる襪乃衣服あやしく各
 物あててそのふ愛代りてやうくよ首をけりて年
 といふ母の病よりけりて母も一人一人抱ゆるを
 し好この食物志るある醫業をも好むといふ程く
 多かりしものいふもろくといふけりて日数ある
 中へ夜食をもして後ろへて暮日よの必暮の宿
 といふ音をもとてけ膳具を付しあひとめりてつたて

といつて物語して年月意の事あるといふとるんといふに
 惣助もろのをまひて後一人の男子とあうけく湯助と
 名をきしといふといふといふはよき事なれといふに
 とつあへく父を養ひたると人の憐れを尊むる人も
 物めしに母の湯助の父乃あつていふるれはあつて
 産業をもといふといふはあつていふるはあつていふも
 つせやへいお母のまをもらんよ孝養人の中にある
 といふといふもいふも父の兼つていふは必乃若光寺に
 宿せん事と預ひあつていふ事とていふていふといふ
 是は田作の起外といふていふていふていふていふていふ

父のいぬりと伺ひ言ふとと系とくりりて後乃用
 度を調へ寛政四年父と伴ひて出立けり父のよもひ
 七十九より乃り事もちくく一り孫のよとひを腰
 をくく山坂を、おひまら七十里乃るを、ひくく
 くお抱して秋の初よゆりふぬ志うのよとらに人とな
 里して睡くた乃りひくく一りひくく事ありくくひ
 遊さるりりよ娘をりてるもれ下女めくはふ人も見
 あくせしてふく後とをあげける代友水谷祖右衛門
 くくすえあきく一、一回くく六年の八月を孝と徳様
 ことてもよよ銀助の老をきく不扶持まともひ事ひ

孝行者六右衛門

孝行者佐左衛門

筑摩郡下西条村乃百姓よ六右衛門佐左衛門とく兄弟
 乃きのあり知さうりつ合せそく父母にうくつ一、
 耕作よかとそくして父のせりり、田圃ともさうり
 中の佐左衛門よ、田畑をさうら家をあへくく別よと
 せられとも家事ともありさひともいひさうり
 も隔なきさけ、孫よ奉奠の米とまんと、刈入るさうり
 ことさうりに仕立とさ名まれ下知を宿て六右衛門、
 くり回く移り事奉毎よとたりさく父とも六右衛門

男も例をうらと記却てしとけ敷のちをさうせ
 とれどもうらも厭ふらうとて思ふしん〜と母も
 斜らうと信ひ汚ひくる人のも三人の事と信ひけ
 さいを木のそのをのめ村乃長も信ひてして母は様
 を加へまう母はあもともく〜くをの家よのそのの
 けつと市左衛門海く款〜く折あゆむて〜とよとらる〜と
 かつと負てんの中く〜く〜とあまら〜と〜く〜の老わ
 ありて氣力も衰へ後路乃高ひ〜と〜と〜と〜と
 るれい各古茶飯田の辺よ〜と〜と〜と〜と〜と
 白〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

ふい本曾路より信ひ出せる番物と〜と〜と〜と
 の月日お里のつら目よ往來と〜と〜と〜と〜と
 一物ともあよ明せ〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 ころ長座〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 て新物をもう〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 意として家よゆり母乃ゆり〜と〜と〜と〜と〜と
 あひ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 事い四十里の名錢色〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 里毎れ者よ由あ〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と
 を所乃風告〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と〜と

んのちのいよりのせりいりのを孝人と感して頼陽り
 一人あても風をよしてめらるるによるを知らせ
 てふらうゆわとせそのけ望も松平丹波守の朝の
 治むらぬらうともく親をらせくその孝を賞し
 ちのものをこぞえあきしこの寛政六年閏十月清
 養のあつて母の老を喜ぶ杖持翁とあひまぬ
 よの娘陽のし事志ありとい

孝行者源後

水内郡之輪村乃百姓源後といわくより父の後れ
 家持めく貧しく世後世の事淋らありとい

十の業より人給後と母の給りける後らう人
 をめりて家よ物りいりて耕作よ力とて一徳あ
 りていよのいりてむらういりて母よまらけり
 母もこのいりていりていりていりていりていりて
 ありけりて徳也もいりていりていりていりていり
 田畑の事もいりていりていりていりていりていり
 ありけりていりていりていりていりていりていり
 乃らに業とていりていりていりていりていりて
 出りたり今の妻れとていりていりていりていり
 母らとて或い人よ拾れ或は市の海らとていりて

日毎の市より買ひて母の酒を好むく伊勢
 町といふ所ハ味酢小勝色一といひるれハ市の邊といふと
 必おめく家去着とありいさうこの錢とけける界を
 肴のつてを求めける或日さぬる有て彼をよめるあ
 たは近きたり小ておひきりて大いこの毒とてりち碎
 ちし器の葉けまじらもいさうも根とせはこ後ハ後野町
 小のそめて求めしこの酒うる人ささるる孝んよ感
 して價の糸もこせそりこく日毎の市に出に
 つかハ後ハ市人も見たりて縁入あつハ草の夜敷を
 とあつふるもあつとと親とすよの老せしと也

日毎の市より買ひて母の酒を好むく伊勢
 町といふ所ハ味酢小勝色一といひるれハ市の邊といふと
 必おめく家去着とありいさうこの錢とけける界を
 肴のつてを求めける或日さぬる有て彼をよめるあ
 たは近きたり小ておひきりて大いこの毒とてりち碎
 ちし器の葉けまじらもいさうも根とせはこ後ハ後野町
 小のそめて求めしこの酒うる人ささるる孝んよ感
 して價の糸もこせそりこく日毎の市に出に
 つかハ後ハ市人も見たりて縁入あつハ草の夜敷を
 とあつふるもあつとと親とすよの老せしと也

このものとせしむ事少し義又いつの事と身よおと
 雷の如雨の夕をもいとと産業といとあましく母
 より目のいこりもあへ父母共たかきりて後二親とも
 ふうせつあへいんいあをれいりていりあふりあも
 その身より入をさうてめくうまを秘めけまひより
 身よりいとうと定めんよ初らるる乃からりあ
 さあよんん事も是果あうとくる成二人の身
 を怒り言らういれくを主よ受えて元文四年
 十二月寝病あのおらうせけり

奇特者年云流

安曇郡松傍村乃百姓年云流いとなり篤実ありて
 田畠あやうこもてるものなるか天明三年を凶作せ
 し時二百俵の穀を貯て貧乏ものと賑いし雖も
 乃粟米のこくとあへるものをおあへて行へるを村
 これものよも諭して行へさせしこの程も糧よ若
 しめる身の多うあけ進い家の内乃もの、兼食を
 らして兼て行へ穀物とい次乃年中あうり強あ
 く施しあつてあひのうり給主よ受えしこれ
 奉れ三月寝病ありさ初て後大町村よ火あり
 し時大よあへるものよ六十俵乃白米とめくこ

同ころの年も大町組乃村くさりしひあしりし
 ころの負ふ家くふ二十名の業とせしとせし
 凶年の後報若小通りし情を志ふまのひ必物を
 ころせし種あうしての家産も傾ころしとく親
 族の疎めくし人の整妻いあらしめ定むころに
 もあらしと今人並ふ世を渡りてさうもの凶年に仇
 もも及も疎いころ村人をとくもんよひ子孫のこめ
 をのつころうしりるんころの家産を被りぬ
 ろともいころ人の報経と余はよころのこころし
 て穿もつとせしと若よ名穿をこのあふと穿むとせし

一めとけて耕作の力をとく子もくハ孫の農業
 と勤めく子息のあまぬるをとせしハ農家乃勤め
 ころころあらゆなくけと知てハ子孫さうゆも
 とあらしとて悦ひしとなん大町組乃村く志と
 しく仇よちやめらとりて昔ら儉約をもちとさよ
 しく能直れむとせしと傳ふる事ありしに年々満
 日らりしとあらぬ兼食とさくけとせし家のうち
 のもれ赤款とさく志の身乃妻の産るへら決とせ
 決よとせめけれとも今いさころのひもめやとせ
 此の家産を営むふあらはもくけ後も能り

なるもめらる人ありいよとくもんの不意ありとて味
めどもさうとらつた事賞素といひとらつ族
のもれをもつ子よ諭してまののけひもあらう
めそののりも奇特の事とも領主に告げて同じ
七年二月を称してとも賞を授けける

孝行者たよ

たよい安曇郡塩碓新田村の百姓織右衛門の母あり
二十一の時夫乃助右衛門よとられけるよ娘とらうめ
不縁乃ものる父母の家より帰りて再び人のまを
よかといひいよとらにまのいよとらうく娘乃

例よありておさうたものいひいよともさぬ不
しといひて娘のまひよのまをさうよのり
ひやくまふりよまて産業よ悔ひよ家乃たあら
しうらよと孝女もとらにあらぬしとてみ
つらおのいおらう男女とめく並にも男婦りよ
耕作といとまその子と教ふる事も稱んよ後
ありし織右衛門も又おめやうよ生立て田島の
業よ意らよと二人の娘をもとらふしこよ嫁らせ
織右衛門よも妻いしとて娘のふとら安らうしと
い多病乃之のありたれい食おとも許さうしと

てあつてつ子も業と好めりやうりてとやとてあ
くつて業と好む人の跡うつくしき品をさくる村と
ととやうよ是ととらめ朝夕の食も箸ととるを
されいそつてとてとむ事多く折々の衣服やいそ
てんとつ事毎よ自ら織て姑よ若世疾の時の
も例をさうはゆらつて悲小振ひさるり四年とさ
と中風のさぬよあやうくおれもあつ孫い二使を
とりおさめ腰膝をさるるとさうりそのおのれあて
寝ぬ其の日の園庭をひてあつて業とともうり
せんして人の手とさうはゆまよとされてつり二

六年の男あつても姑の心小違ふと考ふを
とく耕作を一廬之家と治る事跡達るとさう
あつてつり八領とさうもあやうく天明七年十二
獲りありと

潔白者友治

小縣郡 智杖村乃友治といふは田畠もる記多
百姓の多く同姓馬鞍村の惣玄清といふもの家に馬
子をよとつ小事とて日小旅人のその物やまに
負を賃錢をうけと世渡りさうけつて天
八年四月十六日同姓松本氏の飛脚と人のもの

為物と馬小負を例の如く上田の城下京町ある井
 筒登茂吉といへる様乃宿りに送りつきてその御
 るさに祝言初村といふ所の馬宿より体らひて皆
 うたんとせりよ馬に腰括乃内より十四日あるもあ
 らじと見ゆる包といふ金の出けきハ後治大よ警
 こその所よ形巻に盡ていそとて家よ御りまよ
 ころくと昔よりまよハ海日比あめわのあつよより
 て徳つとこころよハ世あつめとつひなれとも後治
 ハ程もろおちあつとあつとて飛脚乃まよハ
 せりあらんいよもして送るあつんとて次

朔とく出立けおに飛脚乃まよハ三つりて尋
 ぬる程よとていそともいそとてけり後治あつ
 せりあつとていそとてあつとていそとていそと
 くと善いふれハ速よ金充出と封せつとあつ
 てとてあつとていそとて飛脚ハあつとていそ
 乃料よりとて二百文の程とせつ後治ハあつと
 もいそとていそとていそとていそとていそと
 らけとていそとていそとていそとていそと
 ハその年ハ七月とあつとていそとていそと

忠義者若き清

若き清八の妻の嫌や小町乃高八の妻のついで
 あり六右衛門の父と云ふ六右衛門といひては六右衛門の病
 うせその妻も年以申風を病ひるやとらむりの中あ
 やうよ扱ひ其子の六右衛門の妻の病の事久く病
 てうせあり一はも残りこころ多く命抱して死乃
 事海く悲よとらむり數十年ありといふを
 してそつらん六右衛門の妻も又云ふ六右衛門といひけ
 るか家をつらむり若き清八の向ひて別よ高八と
 云せん料よあり一の命もあつて小家の病の事
 せあり一はも今か家をつらむり一はもあつて

ころ事も心よ任せと陰味増やりの物に終へあれ
 ころころいひてつらむり六右衛門といひては六右衛門の
 若き清八の困窮をいひて志りつれいひて
 事つといひて同じ嫌や小町乃高八の病を
 るか抱ひひ終へんかもあつて六右衛門といひては六右衛門
 高八もあらはに竹笠を造りてつらむり一はもあつて
 後とつらむり一はも六右衛門の病の事久く病
 人の病とつらむり又小町乃高八の病の事久く病
 五右衛門の病とつらむりその病をつとめらむり一はもあつて
 悲よつらん今の病も六右衛門の妻も病を

一玉丸丸もさう續て奉はたけのこころの家の
 移りゆくか抱ふ心成さううせふく後の舞は乃
 費とも人よかりをちぬ又いさか移へおてかへてこの
 如くよむとさういひて後いさかの稚子どののさ
 て夜の指つこころの自ら一族乃家小移してあ
 ひ清め又いさか才免もくあらうこよ福くとい
 へばこれとらを身おてとこころをけら、家継とて死
 しはさあおかりげん親族乃くありて家継をう
 けて債をつくのいさかのふと、この事くか家に
 よひらりてさういふんうきめけつとえり人見

乃久米吉舟の仙次郎といふものこころも毎い
 道いさてもありぬいさかといさかのと榮ふおれら
 若き清と父とも母ともたのこころいさか信を
 あまて人の祥よざりある事も免れ多く若き清
 もあまていさかといさかといさかのいさかのいさ
 をも志のあまていさかのいさかのいさかのいさ
 ともいさかといさかといさかといさかのいさかの
 のいさかといさかといさかといさかのいさかのい
 さい誠を祈りて終るいさかといさかのいさかのい
 天明元年十二月乃集ありとここれ後仙次郎の同

一 藤下の法町よき高人の書に云く
 久米若ハ飯田乃藤下に書きまゝに
 此の通入の因縁を述ぶの件を
 よしとしりり女子の寛政の
 とふありける

孝行者つら

つらハ龍宿那金澤町乃百姓者
 十三年と云ふよりせ姑ハ十二
 年と云ふよりせ姑ハ十二年
 といふ事もつらハくわん
 といふ事もつらハくわん

酒をこのころのころのころ
 ともろひつらと云ふ事あり
 も日毎の買とつらのころの
 ころの買の食を日ごとく
 くやほ中の世を初め終へ
 たらあつてめ日ぬく
 乃中事ありつらと云ふ事あり
 かとあつて日毎のよき
 食物をあつてつらと云ふ事あり
 と例乃食も姑のころのころ

一、いふをのをいふてわうくよ能を志のゆるあひの
 とはあまのまことおしくいあうらけを思ふもいふいふ
 こと價さといはれらるるにを漁道来りいふ貫ひ
 事といひあてて心ゆくもあめそりさうく天徳六年
 秋穡のくくも作りの穡米もさうさうくと言の
 ちるの料ゆらうく終へ盡るうとすも姑乃をのくくを日
 頃よりあつぬらと悲しくさかの穡米を種くゆくと見
 ふとてめをてい言の穡くくもいふこともさうくいふ姑ま
 りも志らくくめとあふいふありいふ志らくの言と愛
 て穡米より久正月のち姑よをめん種はらうくくして終

へるり村長も孫よ懐て鈔をよこして事ありくに
 満成ハ種くのまのを種くとて姑の求めをあらうと
 姑も悦び訪ひらるまのあまは年以病てあともあ
 らう種く衣服食も事たてて物もいふくとも事
 やとくいぬる事志りくあう姑の孝養あめやうと
 るよふあまといふと種くくとて道といふらうのものも
 年して女子を教ふら種くをあげけら姑ハ七十六年
 寛政元年より廿二のちか迄福の為ゆらうく乳の
 まとおひついで國川中嶋の若光より福くく乳
 んくく事とも領まよとてえくれの回と二年

十月二十日 此条と抄とをくらべてよく書く事あり

忠義者名助

坂田乃城下松尾町二町目の高人名助は十七の時より
本町よりいひ小右衛門といふものより年と限りてはけり
へんころ海ぬる後も程まめやくふ仕へるころい主人
も感して手馴れく業を世後世のたつてとて
かえ然るへくころいひまをくかといひて暇とと
らせけりよもらうりころお存もゆと孫い今より後
い小作をく又い日傭の業といふとてけ家の事
をもうりちとらうけくありふくころい久を名め

十八年よりいひ松尾町より借をくしてとてけにい乃
孫の小右衛門の世よりいりて家産を失ひられは名助
深く歎きしてい主の家より移りてい事一人ふては
めやうのころいひころい後よりい主の親族おころり
て小右衛門の身れ小源とといふものより別よ家といひ
あてい挽つころ家よりいころいせに業といふころい
めれといひころい名助とて年をい人のいけとれ
もして一人居あらし事然るころいころいよもめくに
も家ねといひよい何せあらしく小源とていころい家
よまのい家職といひけりて小右衛門のいころいもふりぬ

さいふくをよひ申へり日くも池田町乃迄ハとらふもの
 の伴もやうて彼も業をさうらひせぬおのりもあてもあ
 たらふ事あまひぬ風をむいといふとさういふとさうあ
 りあめらうてはひぬりさ友の伴もあつらひぬ茶
 やうれものもあつらひてあつらひぬ茶の伴もあ
 めらふといふもあつらひぬ茶の伴もあつらひぬ茶
 腹のよめあつらひぬ茶の伴もあつらひぬ茶
 海縁帯をさうらひぬ茶の伴もあつらひぬ茶
 敬ひうつくのさあつらひぬ茶の伴もあつらひぬ茶
 めく飯ねもあつらひぬ茶の伴もあつらひぬ茶

日傭の業をさけとけらふ小右衛門の伴の不用ある付て
 伴乃雇の道乃徳つゝ事をも辨してさうらひぬ茶
 ぶさ乃用と毎して價をもうけさうらひぬ茶又兼
 てさうらひぬ茶に依り出せる種々れ初極を終へて
 してせよといひ小右衛門を家よ拓くもさうらひぬ茶
 事今にさうらひぬ茶もさうらひぬ茶もさうらひぬ茶
 小卒さうらひぬ茶もさうらひぬ茶もさうらひぬ茶
 やうありし事さうらひぬ茶もさうらひぬ茶もさうらひぬ茶
 申さうらひぬ茶もさうらひぬ茶もさうらひぬ茶も
 つく今の小右衛門の田町乃福りし後中てと代さ

花のやうも咲かんをぬらんをいふとてあひこまはら
 よとていふやうが歎きうふと男よも志しやうとす
 めやうの論せしうその孝行乃あらはし領に
 若るものあり是れは安永元年三月叙をあたひて
 賞せり

孝行者史

佐久郡下郷村乃百姓史と云父乃名を八右衛門と
 せしといふのる田畑をのり馬をもててて耕作
 せし多病ありて産業の怠りてしる小服ありて
 産業ありとありれ人の笑ひも賤しうぬお定と云

父よの事おもうてまめやうなる生質なるをて農事
 をたけとして父母と二人の妹と二人の力ありて
 中よも孝の心めく朝夕の祀外とてめらうり
 乃扱ひ慈ありき父がこの如くの病志ふれい
 るよ任せぬよ果てをわけて定て産と産物のよ
 とくよいの時作ともて耕作乃るうう
 事とていふううのつよむ子よ志しうひとて
 うも積ふよあつせと隣家又の組合乃ものもんを
 そんさとのりれ事い宵くとも若くめりて諫め
 せしといふいふとあふいりてれと程も父の

事領より少少えり安永六年二月獲美の板を
 あらふ母もやうく小妻へ胡夕の管をもたやち
 しくあまらにささめみすれらうめて同族の
 浦村より妻と安らせりよそれも又まよおひて
 根管といふこと父母のまひひ力をさうて縫針
 乃業もんの中のみ 福も已りさうく来りし衣服を
 まよ免せ直迄眞実よつりし又も領より
 ころえく天明七年十二月妻も教をあらへ村人もそ
 の信いしとくとのさあしく物をさうりしと
 奇特者も橋傳の志業

高橋傳の志業の依久郡山形村の百姓あり嫁の儀と
 してはの新田を支配して世々豊ふらうし家と継
 ぐる初め田の言とつふらうしあも二十石あ
 海りやあこへく別よとらうめらうし傳の志業の
 務めく篤実なるも乃あく時のあらうしよ務ら
 せらうし先祖乃授をさうりしてさうも改めはよ
 くの月の程を毎へく著れる事さうし夜食もめ
 つふとれと目さぬよあし家富るのしもあら福と
 年毎なるりしひとと凶年のしとけよしと
 五秋の實のしととこれいしとよとも用うる事

あり、殊よ山新村ハ民の家居もあつて、移めくゝあり
 けり、これ作ぬの民の家産と云ひ、妻子と云ひく
 とも、あつたれ、あつたれ、と云ふ、その家も、まゝの
 して、人とも、り、と、試み、か、國、の、送、り、又、な、ら、う、く
 家、産、農、具、中、も、あ、つ、て、領、主、の、つ、け、く、ま、村、の
 民、乃、教、の、う、り、の、建、け、る、兼、て、う、り、か、く、と、う、り、ひ、も
 の、教、多、く、今、も、山、新、村、の、二、十、六、新、地、の、儀、よ、二、新
 と、云、つ、て、の、人、教、百、十、四、人、と、う、り、彼、の、家、を、く、新、と、云
 へ、て、と、あり、又、飛、治、を、ま、ま、の、ま、ま、く、農、具、作、成、せ、
 たり、か、九、年、さ、ら、の、凶、作、う、り、後、に、さ、て、也、と、あ、天、の、年

同、さ、六、年、稼、穡、あ、つ、つ、の、ふ、り、の、移、へ、と、う、り、教、也、と
 云、つ、て、後、に、一、方、の、年、も、ま、ま、村、の、う、り、及、び、山、新、村
 中、に、も、傳、へ、た、儀、の、儀、よ、新、り、一、と、の、多、う、り、記、志
 の、儀、あ、つ、と、年、毎、十、儀、の、教、を、出、し、て、村、長、の、件
 に、移、へ、と、云、ふ、年、の、あ、つ、つ、り、時、多、く、民、を、教、ふ、料、と、な
 へ、ぬ、儀、と、う、り、今、ま、り、れ、と、の、と、兼、て、領、主、の、租、乃、百
 姓、と、云、隔、つ、つ、と、あ、つ、つ、い、ん、な、れ、の、儀、よ、新、り、又、も、と、う、り
 へ、村、人、の、列、よ、結、ひ、一、後、に、云、兼、と、あ、つ、つ、め、あ、つ、つ
 租、乃、百姓、の、さ、あ、つ、つ、扱、ひ、一、後、に、云、兼、と、あ、つ、つ、め、あ、つ、つ
 賤、く、あ、つ、つ、家、産、中、に、せ、く、多、く、民、乃、け、村、よ、ま、ま、と、云

も又多うりつゝとらう傳ふ若衆の後の田畠なども
 ありとく面白く名ありれを指らありつゝこの人
 の為の故を費はさず事多うりつゝこのいさせは終へも
 多うりつそれ身をつまやうりつゝ終も人を救
 りん事どうとらうりける奇特乃とらうりつゝ領主
 小守えこれの録の復もつゝと田字と名のり
 かと帯とらう事やうりつゝ天明と年の事あり記

孝行者 孫芳八

孫芳八の更科那川中流今井村の百姓松太郎の
 あり母の孫芳八の三つ年の時よりおらうりつゝな

やとて醫療の強るつゝのいさせとやうりつゝな
 られハ父乃松太郎も後方うりつゝ縁らうりつゝ田村の
 い見年終のつゝいさせとらうりつゝ年終もあまうりつゝ
 ちる事と厭ひ別よ小家を作して住せつゝか孫
 芳八はとほく歎こさ難極ひよもき事つゝらとて明
 書母とつゝいさせとらうりつゝ年終の事つゝいさせと
 に見もつゝいさせとらうりつゝ年終の事つゝいさせと
 葉子とつゝいさせとらうりつゝ年終の事つゝいさせと
 てとらうりつゝいさせとらうりつゝ年終の事つゝいさせと
 然らうりつゝいさせとらうりつゝ年終の事つゝいさせと

目村乃佐云湯といふものよ奉と湯めて仕へ母乃
許へも程迎け申すの暇と伺ひ申されを好て
志をくつ傍ひり夜食をも心乃及らん程ハ云々
の家れ勤め疎りあら孫ハそのふも又云ふひ多り
て後母の病よりよ志をけきと申迎乃人として
孫ハ家よ迎へん事と父よ志をくつよ申もこれ
孫ハいやあ〜よん程りこの組合のもれある組
ちると頼とて又も申事慈あり〜この父もあ
進よやあひん申り〜に多れハ孫男ハ軒るう
悦ひこのよ〜母に〜申〜かと母も又うけ申る

とう〜言程ふ母乃病強りあ〜食多れハ本意乃
かくに家よひんその身も主小暇をうけ家に
て父母と養ひ人の田畠と小作とてカと〜父の田
畠ハよりう田半ハ外ハあり〜とやう〜ふ
そ〜今ハ之名と申す体ハあり〜とら
孫ハ生賃業和あ〜郷里の中〜りり
り〜この村乃長くと地路よ〜小寛政三年
十月教をあ〜と稱美あり

